

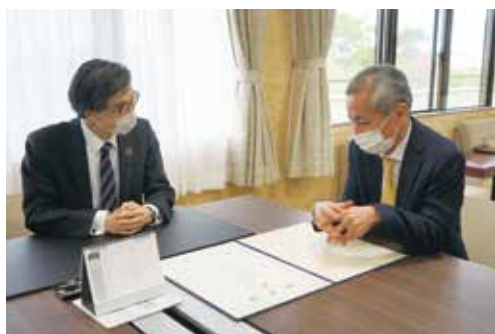
巻頭

(公財) 日本医療機能評価機構から病院機能評価の認定を受けました



大屋病院長(左)、西田学長(右)

2021年10月1日付けで琉球大学病院は公益財団法人日本医療機能評価機構から病院機能評価(3rdG:Ver2.0)の認定証交付を受けました。今回は4回目の認定となっており、「患者中心の医療の推進」「良質な医療の実践」「理念達成に向けた組織運営」の3つの項目で審査されました。



西田学長へ認定の報告を行う大屋病院長

病院機能評価統括 中西副院長を中心に、職員が一丸となって改善に向けて取り組むことで、実質的な医療の質の向上が図られました。今後は、審査を受けたことで明らかになった課題を改善するとともに、自律的かつ継続的な医療の質の向上を図ってまいります。

大屋病院長は「この受審を通じて、私自身も患者中心の医療とは何か、良質な医療とは何か、そして、理念達成に向けた組織運営、また、ガバナンスとは何かを改めて学ばせていただきました。これからの病院運営に活かしていきたいと思っております。」と述べています。

2021年12月に認定証交付を受けたことについて、大屋病院長が西田学長へ報告を行いました。

製薬企業へのヒト組織提供 日本初の「琉球大学産業利用倫理審査委員会」による承認 ～難病に対する再生医療等製品の開発加速へ

琉球大学からヒト組織を製薬企業に適切な形で提供できる体制を構築したことについて、2021年12月7日記者発表を行いました。

再生医療の発展のためには、製薬企業がヒト組織（脂肪、臍帯、歯、骨髄等）を用いて開発する「再生医療等製品」の存在が欠かせません。新しい再生医療等製品が開発されることで、これまで治療が難しかった疾患の治療が可能になることが期待されています。しかし、これまで日本では企業が産業利用目的で国内の医療機関からヒト組織を入手し、利用することについてのルールが明確化されておらず、再生医療発展のための大きなハードルとなっていました。日本医療研究開発機構（AMED）からの委託を受け、当院形成外科清水雄介教授を中心に全学をあげてこのハードルの解決に取り組みました。琉球大学は2020年7月に大学規則の改正と新規規則の制定を行い、従来は難しかった「ヒト組織を産業利用目的で使用」することについて専門的に審査する役割を持った委員会「産業利用倫理審査委員会」を設置しました。また同年10月には、琉球大学病院みらいバンクを設立。これらの取り組みにより琉球大学からヒト組織を製薬企業に適切な形で提供できる体制を構築しました。今後、製薬企業はヒト組織を入手し易くなり、再生医療等製品の開発が加速することになります。

実際の運用として2021年1月にロート製薬株式会社から琉球大学にヒト脂肪組織提供の依頼があり、同年2月に第1回となる琉球大学産業利用倫理審査委員会が開催されました。複数回の厳格な審査を経て、同年8月にヒト脂肪組織の提供が承認されました。同年11月には当院で脂肪吸引を行った患者さんから企業への提供に関する同意を得て、通常は廃棄される脂肪組織の一部を保存処理し、ロート製薬株式会社へ提供しました。

このように琉球大学が適切な審査体制でヒト組織を製薬企業へ提供できる体制を構築したことで、日本全体の再生医療産業が大きく前進したといえます。これにより難病で困っている多くの患者さまに新しい治療手段を届ける可能性が広がります。現在はAMEDの支援の下、「琉球大学を起点としたヒト細胞原料供給体制の実装」として事業を継続しており、将来的には琉球大学からアジア諸国へもヒト組織を提供できる体制の構築を目指しています。



記者発表の様子：左から筒井正人 医学研究科長・医学部長、清水雄介 形成外科学講座 教授、大屋祐輔 琉球大学理事(病院担当)



説明を行う清水雄介 教授（併 みらいバンク長）

琉球大学病院が膵臓移植施設へ認定されました



高槻 光寿

第一外科長・教授



大野 慎一郎

第一外科 助教

このたび、琉球大学病院が膵臓移植施設へ認定されました。国内では19施設目、九州では九州大学・長崎大学に続いて3施設目となり、沖縄では初めての認定です。現在、琉球大学病院では(生体)肝移植と腎移植を行っており、また新しい臓器移植治療が加わったこととなります。

主に対象となる病気は、1型糖尿病(血糖を下げるホルモン(インスリン)が全く作れない方)や病気の合併症により腎不全となっている方、です(『日本膵・膵島移植研究会』HP)。このような患者さんはインスリンをずっと打ち続けねばならず、また糖尿病に伴う様々な合併症で著しくQOL(クオリティ・オブ・ライフ)が損なわれており、膵臓移植は根治療法として確立されています。大部分(約80%)の患者様は、糖尿病性腎症による慢性腎不全を合併しており、このような患者様に対しては脳死ドナーから提供された膵臓と腎臓の同時移植(SPK)が行われます(図1)。同時移植の場合は、すでに当院で腎臓移植施設として認定されている腎泌尿器外科と協力して手術を行うこととなります。その他、腎移植後の膵単独移植(PAK)と、腎機能が保たれている1型糖尿病の患者様に対する膵単独移植(PTA)があります。



図1: 脳死膵腎同時移植術

代謝内科・腎臓内科・麻酔科・ICU・感染症内科等々、病院の総合力が問われる医療ですので、県内唯一の特定機能病院である琉球大学病院で行う意義は大きいものと思われます。今まで県外に手術をお願いしていた方々も、沖縄で治療を完結できるようになりました。長く治療を続けて苦しんでいる患者さんやご家族、担当医の先生はぜひご相談ください。

本件に関するお問い合わせ・患者様のご相談は第一外科 大野慎一郎医師までお願いいたします。

きこえの支援センター

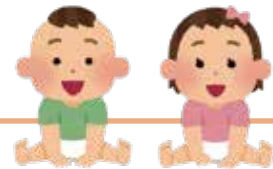
『きこえの支援センター』は、沖縄県全域の聴覚障がい疑われるお子さんや大人の方、そのご家族、関係者への支援拠点として、2020年8月琉球大学病院耳鼻咽喉科内に開設しました。また、2021年1月からは県の委託事業として新生児聴覚検査体制の運用を開始しています。

主な業務内容として、① 小児や成人の難聴に関する相談、② 新生児聴覚検査や乳幼児健診などで難聴と疑われた児の精密検査機関への案内、③ 沖縄県新生児聴覚検査体制の精度管理、④ 聴覚障がいを持つ児・者が関係する各機関との連携を図るなど、きこえに関する全般的な支援を行っています。

【小児の場合】

乳幼児期のきこえは、コミュニケーションへの影響だけでなく言語発達やその後の学習にも影響を及ぼすため、聴覚障がいを早期に発見し、お子さんやそのご家族に対し早期に支援することを目指しています。

具体的には、精密聴力検査が必要な児へ検査機関の受診日の案内と担当保健師への育児支援依頼、また、聴覚障がい児が通う施設(保育園や学校など)への訪問相談や情報交換、保護者や関係機関に向け講演会などを定期的に行っています。



【成人の場合】

大人になってからの難聴、特に加齢性難聴を放っておくと認知症の発症のリスクを高めてしまうという報告があります。きこえからの情報入力への減少、コミュニケーションの支障、社会からの孤立などから認知機能が低下するといわれ、早めに補聴器などで聴覚補償を行うことで発症の予防や進行を遅らせる可能性があります。定期的に市民公開講座や相談会を行い、新しい情報を提供しています。



当センターは、聴覚障がい疑われた際に適切な時期に適切な検査を行い、その後スムーズな支援・治療を開始することで、聴覚障がいを持つ児・者が一般社会へ参加し自立していくことを目指しています。そのためにも、医療・保健・教育・福祉・行政など関連する機関と密に連携を図りながら、多方面から本人・ご家族・関係者を支援していきます。



コロナ治療に新たな選択肢を！

自宅でも安全にはじめられる経口薬の研究が、いよいよ次の段階に

琉球大学では、痛風の治療薬である「コルヒチン」が新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の重症化を抑制できるかどうかを検証するため、2021年1月から医師主導の第2相治験を日本医療研究開発機構(AMED)の研究課題としてスタートさせました。沖縄県内外の患者さん、そして医療機関の皆さまの多大なご協力を賜り、今年1月に無事、患者登録を終了することができました。本紙面をお借りして深く感謝申し上げます。第2相試験では病院に入院された患者さんを対象としておりましたが、第3相試験では自宅やホテルなど病院外で療養しているCOVID-19患者さんを対象に検証を進めていく予定であり、そのプロトコル作成がAMEDの研究課題として採択されました。

重症COVID-19の治療は、抗ウイルス薬のみならず抗炎症薬も併用されます。我々は、重症化してから抗炎症薬を投与するのではなく、重症化しそうな患者さんには早期から抗炎症薬を併用しておくことで、その後の重症化を抑制できる可能性があると考えています。



2021年11月 学長記者懇談会で記者へ説明を行う
植田 臨床薬理学講座教授(左) 金城 第一内科助教(中央)
池原 臨床研究教育管理センター特命助教(右)

コルヒチンはCOVID-19重症化の鍵となる初期の炎症プロセスを抑制するポテンシャルがあり、COVID-19重症化リスクのある患者さんに発症後早期から投与しておけば、小火のうちに炎症を抑制し、重症化を予防できるのではないかと考えています。第3相試験ではオンライン・電話診療を駆使し、自宅やホテルなど病院外で療養する軽症～中等症 I のCOVID-19患者さん(軽症は重症化リスクを有する人)を対象として広く参加を呼びかけたいと考えています。

2021年度災害訓練について

2021年12月17日(金)に令和3年度災害訓練を実施しました。

今年度は、沖縄県全域が震度6の地震を被災するという設定で、多数の被災傷病者が来院することとなった際の受け入れ体制を整えるための初動訓練を実施しました。また、今回は「密」を避けるために、診療エリアでは机上訓練で指揮命令系統の確立を確認しました。本部訓練では参集、立ち上げ及び指揮命令系統の確立の確認の他、昨年度と同様に海軍病院と通信訓練を実施しました。

訓練終了後、梅村救急部長と災害医療部門長の中島診療教授から講評いただきました。



訓練の様子

去る2月21日・22日・3月2日の3日間にわたり、当院職員による「第1回QCサークル発表会」が開催されました。

QCとはQuality Control(品質管理)を意味し、QCサークル活動は日本で開発された品質管理活動で世界各国に展開されています。QCサークルは「運営を自主的に行いQCの考え方・手法などを活用して創造性を発揮し自己啓発・相互啓発をはかり活動を進める小グループ」とされ、単なる業務改善ではなく第一線の職場で働く職員が患者さんの視点に立って自主的・継続的に医療サービスや自分たちの仕事等の質の管理・改善を行う活動です。



昨年6月、医療の質向上委員会にてQCサークル活動の導入が決定されました。翌月には多職種で構成された26サークルが結成され、コロナ禍の中で業務と両立しながらサークル活動を進めてきました。活動プロセスや成果等を病院全体で見える化・共有し、お互いにヒントを得る機会として、また、今後の活動へつなげることを趣旨として、会場内は発表者と審査委員、運営スタッフのみ入室し、会場外の職員へはWebによるライブ配信を行いました。



“楽しむ”をコンセプトに25サークルが発表を行いました。緊張した面持ちながらも随所にユーモアとアイデアがちりばめられた発表が続き、「大変な思いもしたけれど参加して良かった！」とのコメントもありました。質疑応答や審査委員からの講評などもあって盛会のうちに終わりました。

当院をご利用になる全ての方へ提供する医療や患者サービスの品質保証と質を向上するため職員一同、今後も知恵を絞って取り組んで参ります。

お知らせ

患者・ご家族の皆さんへお願い

患者・ご家族の皆さんへお願い

現在、医師をはじめ、医療従事者の長時間におよぶ過重労働が大きな社会問題となっております。

このことを踏まえ本院では、患者さんへ提供する医療の質と安全を確保する観点からも、医療従事者が疲弊せずに働けるよう、時間外労働の縮減に取り組んでいます。

この取組のひとつとして、

**緊急ではない場合の病状説明等は
原則、平日の診療時間内
8:30~17:15**

といたします。

今後も、病める人の立場に立った安心・安全で信頼される医療を提供することに努めて参りますので、皆様のご理解とご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

岡山大学病院

確認重要!!

あなたのために

**姓と名
生年月日**

何度も聞いて
ごめんなさい。

安全管理対策室

専門外来診療日割表

Table with columns: 診療科 (Specialty), 専門外来 (Specialty), 月 (Monday), 火 (Tuesday), 水 (Wednesday), 木 (Thursday), 金 (Friday), 備考 (Remarks). Rows include 第一内科, 第二内科, 第三内科, 第一外科, 第二外科, 脳神経外科, 整形外科, 形成外科, 産科婦人科, 小児科, 皮膚科, 腎泌尿器外科, 耳鼻咽喉科.

専門外来診療日割表

Table with columns for Department (診療科), Specialty (専門外来), Day (月, 火, 水, 木, 金), and Remarks (備考). Rows include Eye, Psychiatry, Radiation, Anesthesiology, Dentistry, Rehabilitation, High Pressure Treatment, Hemodialysis, Local Medical, General Clinic, Cancer Center, and Emergency.

本院の理念及び基本方針

理念

病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、地域・社会に貢献する優れた医療人を育成する。

基本方針

- 1. 生命の尊厳を重んじた人間性豊かな医療の実践
2. 地域の医療・保健・福祉に対する貢献
3. 先端医療技術の開発・応用・評価
4. 専門性及び国際性を備える優れた医療人の育成
5. 働きやすくやりがいのある職場環境の整備

琉球大学病院では、患者さんを中心とした「安全・安心・思いやり」に基づくより良い医療を目指してあります。患者さんとの深い信頼関係の上に成り立つ医療の大切さを十分に理解するとともに、患者さんには一人一人に次のような権利と責務があることを確認いたします。

●患者さんの権利●

- 1. あなたは、どんな場合でも、一人の人間として大切に扱われる権利があります。
2. あなたは、どのような境遇、環境であっても、専門家による平等で良質な医療を受ける権利があります。
3. あなたは、病気のことや治療について十分に教えてもらう権利があります。
4. あなたは、治療について意見を述べる権利と選択できる権利があります。
5. あなたは、あなた自身の話したこと、病気、身体について、知られたいくないことを守られる権利があります。

●患者さんの責務●

- 1. 最善かつ適切な診療を行うために、あなた自身の健康状態についてできるだけ正確に伝えてください。
2. 主治医や担当医の治療や退院計画に主体的に取組み協力してください。
3. すべての患者さんが適切な医療を受けられるように、病院の規則に従い、医療の妨げとならないように協力してください。特に攻撃的な態度や暴言、乱暴な行為は謹み、施設の所有物を大切に使うようにしてください。

Map and text for '本院までの交通機関' (Transportation to the hospital). Includes bus routes (97番 琉大線) and taxi information.

ボランティア募集

本院では、一般の方からの病院ボランティア(外来ロビーでの案内・補助等)を広く募集しております。空いている時間を利用して、一緒に参加してみませんか?

まずはお気軽にご連絡ください。

【連絡先】総務課 098-895-3331

(内線:1006)

琉球大学病院

http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/



電話(098)895-3331(代表)
医療福祉支援センター(内線1371)

〒903-0215 沖縄県西原町字上原207番地